

目的 すでに、高齢者の戶外で着用している服種の分析結果について報告したが、高齢者も洋服を着用する傾向にあり、既製服の利用率も高い。そこで今回は、高齢者向け被服の開発の一助となることを目的に、戶外で着用している外衣のデザイン、すなわち形態、色調、柄、着脱のためのあき等について服種別に分析し、高齢者に着用されている被服のデザインの傾向を明らかにしたいと考えた。着用服種は季節により異なるので、春、夏、秋・冬の3期に分けて検討することにした。本報では、秋・冬について報告する。

方法 1) 高齢者が参集する名古屋市内の寺2ヶ所を中心に、高齢者の歩行時の状態を無作為に写真にとり、それを分析の資料とした。サンプル数は男女各々700名である。

2) 調査時期は、1988年11月上旬から1989年1月中旬までの午前10時～午後2時までの間とした。3) デザインの分析は、最外衣の服種、服種別の襟および袖の形状、着脱のための開口部の状態、色調および柄の有無等である。

結果 1) 男子の着用している服種はジャンパー類ヒズボンの組合せが最も多く、約45%をしめ、次いで増広ヒズボン、長コートヒズボンであった。ジャンパー類のデザインは、襟は4種、袖の形状は4種に大別され、あきはジッパーが多かった。色調は茶、紺、グレー、黒系統が多かった。2) 女子はジャケットヒパンツの組合せが最も多く約22%をしめ、次いで上衣は半コート、カーディガンが多かった。下衣はスカートヒパンツが約半にであった。襟はジャケット類はテーラカラーが、半コートではオープンカラーが多く、色調は男子よりも広範囲にわたった。